

# 底魚資源調査※

堀木 信男・阪本 俊雄

## 目 的

本県沿海の底魚資源と漁業をモニタリングして、資源の合理的利用についての研究を推進し、漁業の安定と振興に資することを目的とする。

## 関連事業と調査の内容および結果

本年度実施した底魚資源関連調査事業と成果の概要は以下のとおりである。

- (1) 200 カイリ水域内漁業資源総合調査
- (2) 瀬戸内海漁業基本調査
- (3) 底魚資源調査
- (4) 回遊性魚類共同放流実験調査事業

(1)は、標本船調査として、

加太漁業協同組合	一本釣	1 隻	(4~3月)
湯浅中央漁業協同組合	"	"	( " )
白浜漁業協同組合	"	2 隻	(4~5月, 10~3月)
印南町漁業協同組合	延縄	"	( " )
雑賀崎漁業協同組合	底曳網	1 隻	(4~3月)
塩津漁業協同組合	"	"	(4~12月)

を、生物測定調査として、

マダイ(体長測定)	加太漁協市場	(4~1月)
"(体重測定, 全数)	印南町漁協市場	(4~5月, 10~3月)
"( " )	白浜漁協市場	( " )
クルマエビ(体長, 体重測定)	雑賀崎漁協市場	(6~11月)

を実施し、それぞれの調査結果を取りまとめ、南西海区水産研究所に報告した。これらは200カイリ資源調査集計表として整理取りまとめられており、資源評価は200カイリ底魚資源研究チームによってなされた。

(2)は、同委託調査要綱に従って、雑賀崎漁業協同組合所属標本漁船のエビ類ならびにヒラメ・カレイ類を一あるいは二曳網分の全数測定をし、担当水産研究所に報告した。結果は「昭和59年度瀬戸

※ 漁業資源調査費による。

内海水産資源担当者会議議事要録」(昭和60年3月、南西海区水産研究所)に収録されている。

(3)では、同委託調査要綱に従って、田辺湾小型機船底曳網漁船に漁獲される小型エビ類の種組成と体長測定を行った。標本は市場にて1日1隻分の小型エビ類を買い上げたものである。小型エビ類の種組成を資料11、主要種の体長組成を資料12に、また、湾内を漁場としている田辺漁業協同組合所属の小型底曳網の出漁隻数、魚種別漁獲量を資料13に示した。

図1に田辺漁協所属小型底曳網出漁隻数および1日1隻当りエビ類漁獲量の経年変化を示した。出漁隻数は前年度よりも増加し、エビ類の単位漁獲量(3類とも)は前年度よりも減少している。エビ類それぞれの単位漁獲量の経年推移は、クルマエビ類では近年高い水準にあり、本年度は1980年、1983年に次ぐ漁獲量であったが、ヨシエビ類と小型エビ類では減少傾向がみられる。図2に1日1隻当りエビ類漁獲量の季節変化を示した。クルマエビ類は春季(4~6月)と秋季(10~11月)の2つのピークが

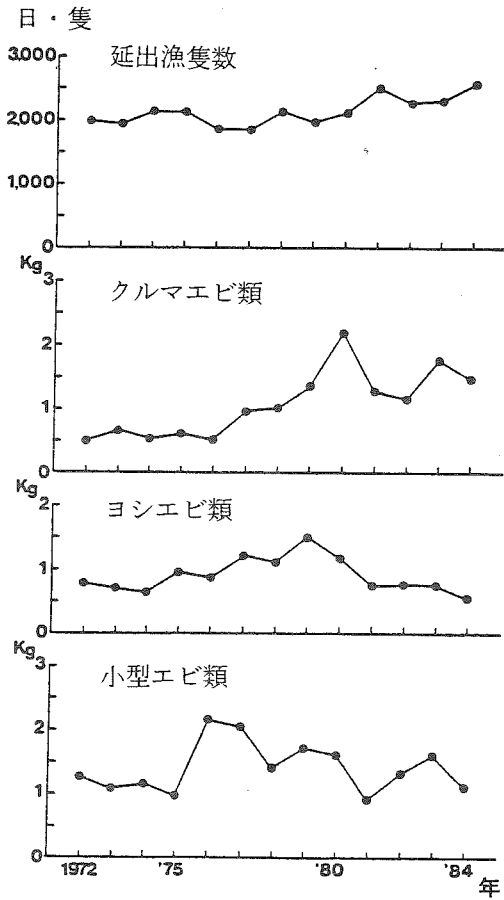


図1 田辺漁協所属小型底曳網出漁隻数および1日1隻当りエビ類漁獲量の経年変化

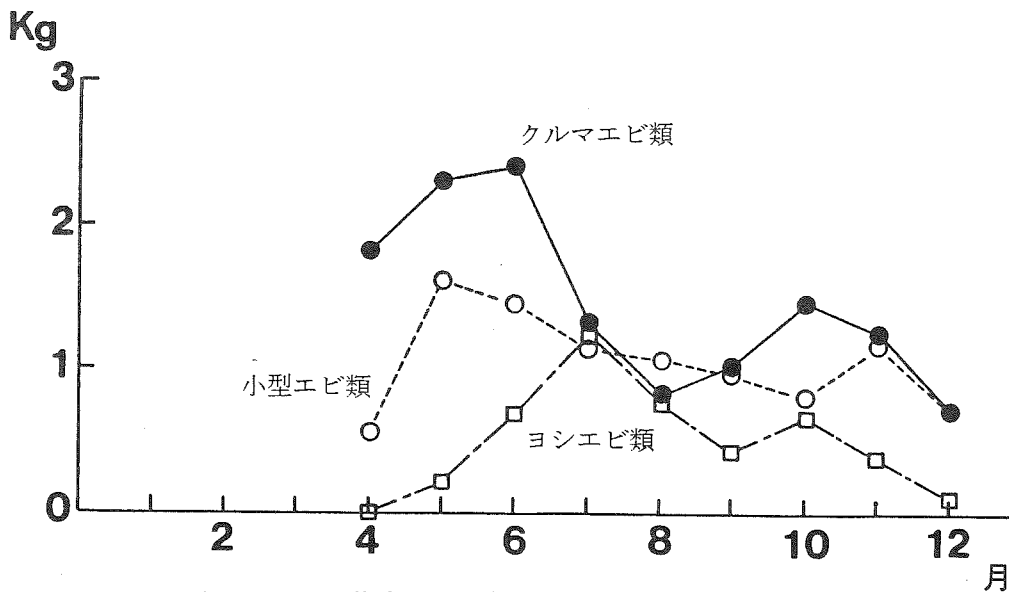


図2 1日1隻当りエビ類漁獲量の季節変化(1984年)

※ 本年度の標本は、市場に水揚げされたものをサンプリングしたため、標本の片寄りが考えられる。

みられ、ヨシエビ類は7月、小型エビ類は5月に最も多く漁獲されている。

次に図3に田辺湾主要小型エビ類組成の経年変化を示した。1981年以前の主要な構成種であったミナミアカエビは激減し、近年ではサルエビ類が最も高い混獲を示している。このサルエビ類は冬季（11～12月）における混獲率が非常に高く、小型エビ類の約90%を占めている（図4）。

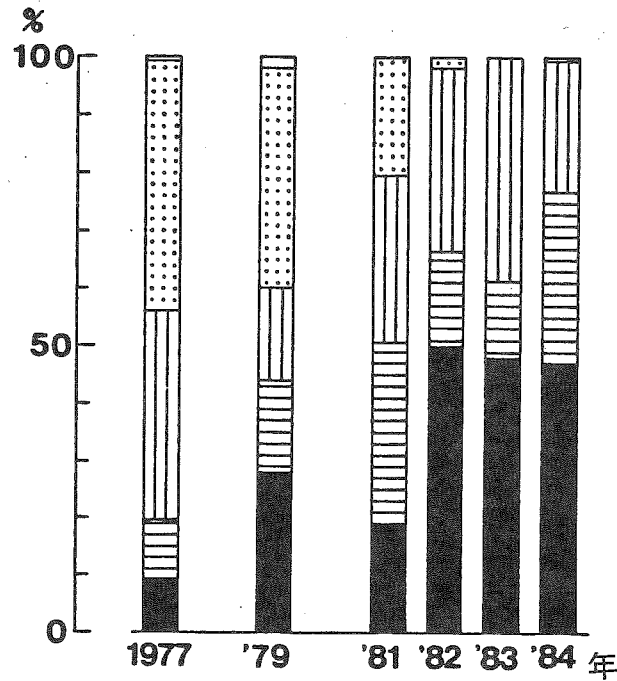


図3 田辺湾主要小型エビ類組成の経年変化

■ サルエビ    ▨ ミナミアカエビ    ▤ アカエビ  
 ▧ トラエビ    □ その他

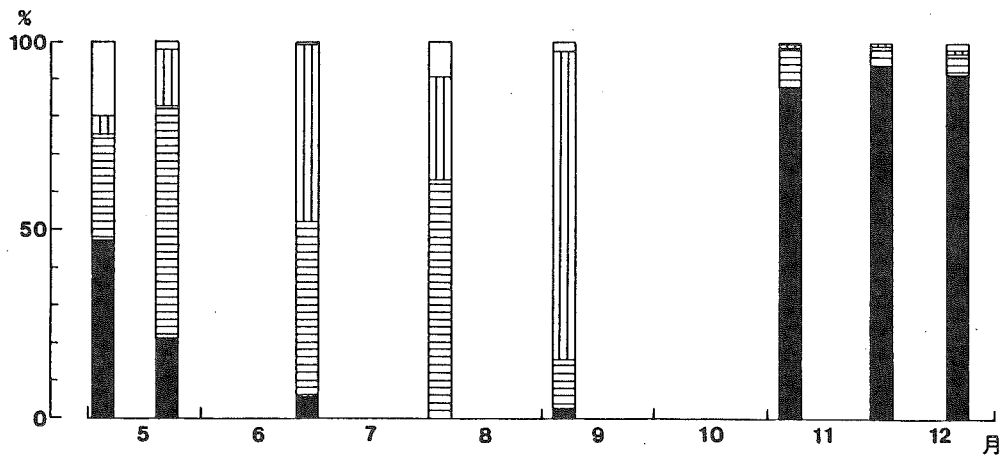


図4 田辺湾主要小型エビ類組成の季節変化（1984年）

■ サルエビ    ▨ ミナミアカエビ    ▤ アカエビ    □ その他